



Air Line Pilots'
Association of JAPAN

ALPA Japan NEWS

日 乗 連 ニュース

Date 2026. 9.29 50AJN04

発行: Air Line Pilots' Association of Japan

日本乗員組合連絡会議

企画会議

〒144-0043

東京都大田区羽田 5-11-4

alpajapan.org

日乗連第 50 期定期総会報告

2026 年 9 月 15 日、日乗連第 50 期定期総会が開催され、上程された議案はすべて満場一致で可決されました。詳細については、「第 49 期総括・50 期方針」電子版パンフレット（10 月中旬発行予定）をご参照ください。



第 50 期の方針・新体制を確認

併せて実施された役員選挙では規約に基づく信任投票が行われ、候補者全員が信任されました。午後の総会では新役員のもと第 50 期全体方針、各委員会方針、予算について審議が行われ、いずれも満場一致で可決されました。これにより、節目となる第 50 期の新たな体制がスタートしました。

各単組からの報告・意見交換

総会では各単組から活動状況や職場課題について報告が行われ、乗員の採用・流出、人材確保や昇格、居住地や勤務環境、宿泊環境など幅広いテーマについて意見が交わされました。それぞれ会社や組合を取り巻く状況は異なるものの、他単組の制度や取り組み、課題を共有し、今後の活動につなげていくための活発な情報交換となりました。



日乗連第 50 期年間方針

「航空安全の堅持と労働条件の改善～50 年の歩みを未来へつなぐ乗員の結束」

日乗連は、今期で結成第 50 期という大きな節目を迎えます。半世紀にわたり、先輩方が築き上げてきた「航空安全の確立」と「乗員の権利擁護と処遇の改善」に向けた運動の歴史を重く受け止め、私たちは今、次の時代を見据えた新たな一步を踏み出す必要があります。

現在、航空業界は需要の回復と拡大に直面する一方で、人手不足に伴い乗員の労働負荷は増大し、技術の進歩に伴う運航環境の変化、航空に関わる法律や諸制度改正など数多くの課題を抱えています。その中で航空の安全を担保できるのは、まさに最前線で業務にあたるわれわれ乗員です。日乗連は第 50 期を迎えるにあたり、「安全の堅持」と「働く者の尊厳と処遇の確保」を両輪とし、加盟組合の強固な連携のもと航空の最前線から主体的な運動を展開していきます。

<基本方針>

1. 航空安全の堅持と現場主体の安全推進

航空安全は日乗連の存在意義そのものであり、いかなる環境の変化にあっても最優先されるべき課題です。これまで同様、再発防止を主眼とした航空事故調査の実現を目指すとともに、Positive Safety Culture の啓発と浸透に努め、現場発の航空安全を追求します。

2. 労働条件、労働環境の改善

乗員不足が深刻化する中、長期にわたり健康で持続可能な働き方を確保することが結果として最大の安全対策につながります。そのため乗員の疲労リスク管理（FRM）の改善を図り、長距離・短距離を問わず、科学的データに基づいた勤務基準の向上とその遵守を求めます。同時に勤務と賃金は一体であるとの認識に基づき、物価の上昇や海外の賃金水準の動向を踏まえ、乗員の専門性と責任に見合う賃金体系・水準の向上を目指します。その上で、不幸にも疾病や負傷等により乗務離脱となった際の補償制度（ロス・オブ・ライセンス）の安定的な運営を図ります。

3. 第 50 期を契機とした組織基盤の強化と結集

50 年の歩みを未来へ引き継ぐため、組合員同士の結束を深め組織の持続可能性を高めます。そのために幹事会・専門委員会を通じ、各社の労働条件や運航上の諸課題に関する情報交換を迅速化し、加盟組合が抱える個別の労使課題についても、日乗連全体としての支援・バックアップ体制を強化します。さらに若手乗員の参画促進と次世代リーダーを育成すべく、若手・中堅層に向け組合活動への主体的参画を促します。

4. 政策提言活動および国内外関係機関との連携

日乗連の専門性を生かし、航空業界および社会全体の安全性向上に寄与することを目指します。そのために、現場の声を反映した実効性ある政策提言を積極的に行います。また IFALPA 等の国際機関や諸外国の乗員組合との連携を密にし、グローバルな安全基準や労働環境の動向を把握・活用します。特に欧州航空安全庁（EASA）等で検討が進む「パイロットを減じた運航（RCO）」等に対し、ヒューマンエラー補完と緊急事態対応の観点から「コックピット常時 2 名維持」を日乗連の立場として IFALPA と共に堅持します。

安全な空を守り、乗員が安心して高い誇りを持って働き続けられる環境を作ることこそが、この 50 年間変わることのない日乗連の基本方針です。第 50 期を迎える今期、全加盟組合・全組合員が一丸となり、対話と結束をもって多様な課題に立ち向かってまいりましょう。各加盟組合の運動への積極的な参画とご支援を強く呼びかけます。

以上

事故・インシデント時の乗員支援についても議論

事故・インシデント発生時の乗員支援についても意見交換が行われました。運輸安全委員会等による聴取への対応や、組合関係者による付き添い・サポートの重要性について、過去の事例を踏まえた経験が共有されました。

議論の中では、「当該者を 1 人にしない」ことが重要との認識が示され、事象はいつ、どこで発生するか分からないことから、各単組が平時から支援体制を確認しておくことや、日乗連手帳の活用、労使間で対応を確認しておくことの重要性も共有されました。

こうした議論を踏まえ、日乗連は総会で確認された方針に沿って、各単組との情報共有と連携をさらに深めながら、第 50 期の活動を進めてまいります。皆さまにおかれましては、今期も一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

日乗連第 50 期役員の紹介

役職	氏名	所属組合
議長	馬場 嘉浩	全日空乗組
副議長	篠永 昌久	日航乗組
副議長	阿久津 烈	全日空乗組
事務局長	藤田 素久	全日空乗組
財務局長	松永 佳	全日空乗組
組織局長	満下 善紀	ANA 乗組
IFALPA Director	中崎 正彦	日航乗組
Accident Analysis and Prevention 委員長	施 凱祥	全日空乗組
Aircraft Design and Operation 委員長	山口 剛史	全日空乗組
Aerodrome Ground Environment 委員長	牛草 祐二	全日空乗組
Air Traffic Services 委員長	溝添 勉	日航乗組
Dangerous Goods 委員長（兼務）	中崎 正彦	日航乗組
Human Performance 委員長	棧原 勇人	アイベックス乗組
Legal 委員長（兼務）	馬場 嘉浩	全日空乗組
Security 委員長	長尾 隆太郎	ANA 乗組
Regional Aviation 委員長	大柿 光生	ANA ウイングス乗組
PA ステアリングコミッティー委員長	土谷 卓生	新日本乗組
監査	福留 克昭	全日空乗組
監査	山本 健磨朗	日航乗組
事務局次長	平岩 佳奈	日航乗組
財務局次長（兼務）	篠永 昌久	日航乗組